



2016年3月期 第3四半期
決算説明資料

2016年2月
Jトラスト株式会社

1. 2016年3月期第3四半期決算業績

2. セグメント別業績

3. 質疑応答

免責事項

- ・本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- ・本資料に記載したＩＦＲＳベースの数値は、当社が参考値として策定した未監査の数値であることをご承知おき下さい。
- ・また、説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社または子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- ・Ｊトラストインドネシア銀行のＪ-GAAPは同行の決算期をそのまま取り込んでおります。（第1四半期：1月～3月 第2四半期：4月～6月 第3四半期：7月～9月）

Key Point

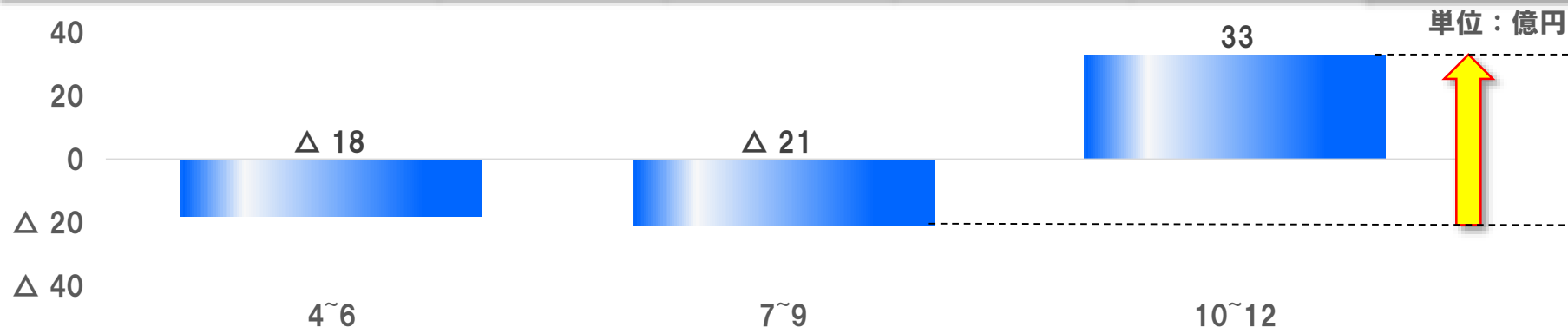
Point

- IFRS基準における連結営業利益は前四半期比+54億円と大幅に改善

IFRS基準 ※未監査

連結P/L

2016年3月期	4~12月	1Q 4~6月	2Q 7~9月	3Q 10~12月	増減
営業収益	573億円	187億円	183億円	203億円	+20億円
営業利益	△6億円	△18億円	△21億円	33億円	+54億円



Point

- IFRS基準において2Q対比では東南アジア金融事業が大きく改善

IFRS基準 ※未監査

連結調整前セグメント利益

2016年3月期	4~12月	1Q 4~6月	2Q 7~9月	3Q 10~12月	増減
国内金融事業	33億円	11億円	8億円	13億円	+5億円
韓国金融事業	△3億円	△8億円	0.7億円	5億円	+5億円
東南アジア金融事業	△40億円	△5億円	△30億円	△5億円	+25億円
投資事業	27億円	—	8億円	18億円	+10億円
非金融事業	5億円	1億円	4億円	△0.3億円	△4億円
調整・その他	△28億円	△17億円	△12億円	2億円	+13億円
合計	△6億円	△18億円	△21億円	33億円	+54億円

I. 国内金融事業

⇒営業収益・営業利益とも、計画を上回る進捗

II. 韓国金融事業

⇒事業および韓国決算は順調 通期でIFRS計画達成を目指す

III. 東南アジア金融事業

⇒早期黒字化に向け、営業体制を再構築中

IV. 非金融事業・投資事業

⇒Jトラストアジアの投資事業が東南アジア金融事業の不足分をカバー



通期計画達成に向け、着実に進捗

2016年3月期第3四半期決算概要

Point

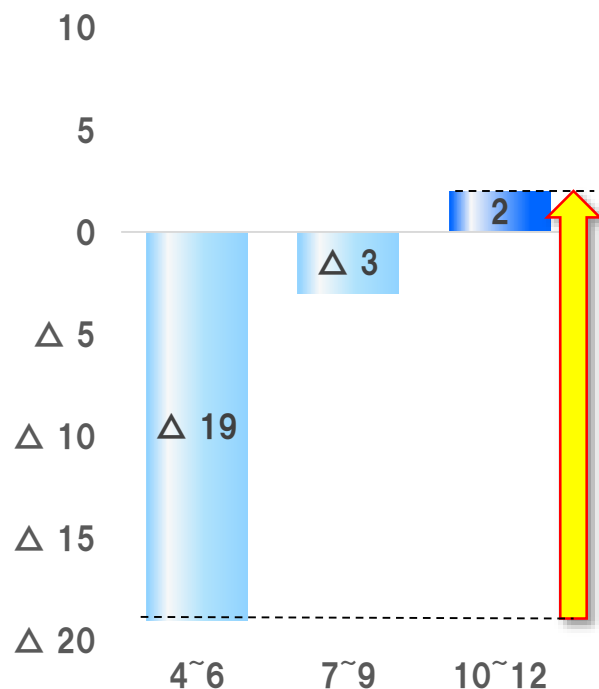
➤ 四半期毎の利益項目は大幅に改善

J-GAAP基準

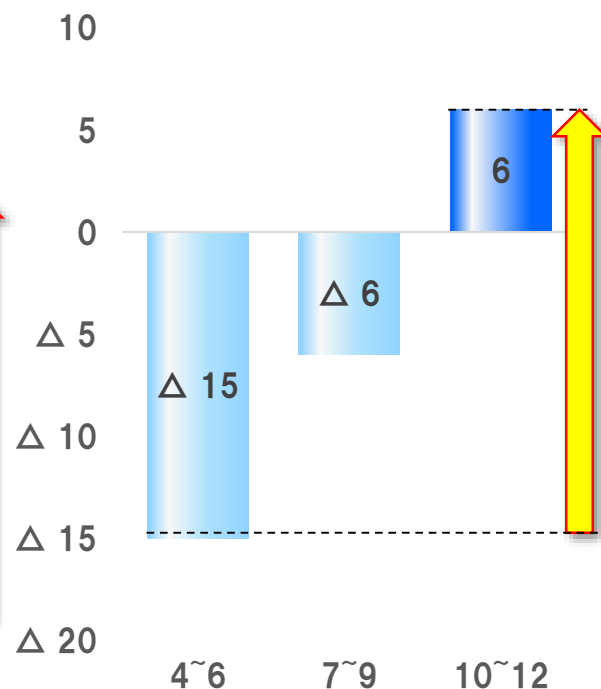
連結P/L 四半期毎

単位：億円

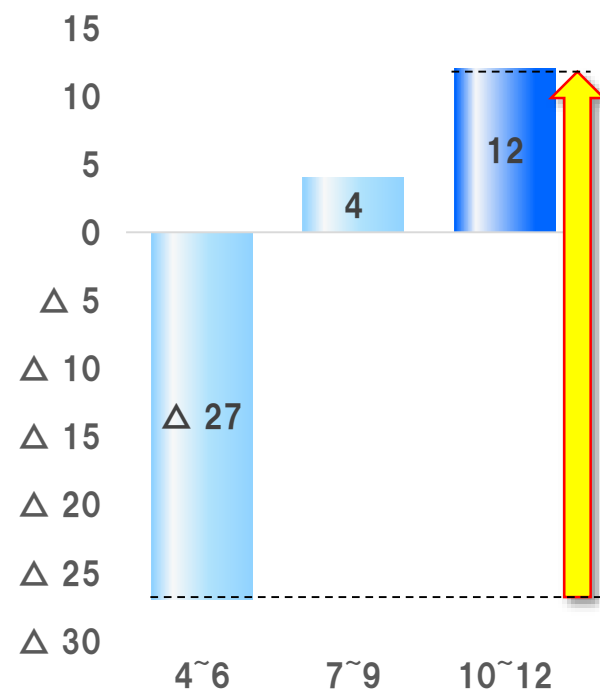
営業利益



経常利益



四半期純利益



Point

➤ 四半期毎の利益項目は大幅に改善

J-GAAP基準	連結P/L (J-GAAP) 四半期毎				
2016年3月期	4~12月	4~6月	7~9月	10~12月	増減
営業収益	579億円	195億円	182億円	201億円	+19億円
営業利益	△21億円	△19億円	△3億円	2億円	+5億円
経常利益	△15億円	△15億円	△6億円	6億円	+12億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△10億円	△27億円	4億円	12億円	+8億円
営業利益率	△3.64%	△10.01%	△2.10%	1.13%	+3.23%
ROE	△0.63%	△1.51%	0.27%	0.75%	+0.48%

セグメント別業績

Point

- 各事業共に営業収益はおおむね順調に進捗
- 連結営業収益は579億円

J-GAAP基準

営業収益

2016年3月期3Q	4~12月	4~6月	7~9月	10~12月	増減
国内金融事業	82億円	26億円	27億円	29億円	+2億円
韓国金融事業	199億円	74億円	59億円	65億円	+6億円
東南アジア金融事業*	90億円	32億円	29億円	29億円	±0億円
投資事業	26億円	-	8億円	18億円	+10億円
非金融事業	167億円	51億円	60億円	56億円	△4億円
連結調整後合計	579億円	195億円	182億円	201億円	+19億円

※ 期ずれ計上

Point

- 国内金融事業・投資事業が大きく貢献
- 韓国金融事業は前四半期比2億円改善（7~9月=△1億円 10~12月=1億円）
- 東南アジア金融事業にて保守的に貸倒引当金を追加繰入

※ 第2四半期決算時にIFRS参考値として開示済

J-GAAP基準

セグメント利益（連結調整後は連結営業利益）

2016年3月期3Q	4~12月	4~6月	7~9月	10~12月	増減
国内金融事業	28億円	9億円	6億円	13億円	+7億円
韓国金融事業	1億円	1億円	△1億円	1億円	+2億円
東南アジア金融事業※	△57億円	△25億円	△9億円	△23億円	△14億円
投資事業	25億円	-	7億円	18億円	+11億円
非金融事業	2億円	1億円	2億円	△1億円	△3億円
連結調整後合計	△21億円	△19億円	△3億円	2億円	+5億円

※ 期ずれ計上

Point

- 第3四半期連結会計期間について、東南アジア金融事業のIFRS基準は現地10~12月、J-GAAPは7~9月と3ヶ月期ずれ
- J-GAAPでは、Jトラストインドネシア銀行ののれん償却が含まれる

セグメント利益（連結調整後は連結営業利益）

2016年3月期3Q	4月～12月（1～3Q）			10月～12月（3Q）		
	IFRS	J-GAAP	差	IFRS	J-GAAP	差
国内金融事業	33億円	28億円	+5億円	13億円	13億円	±0億円
韓国金融事業	△3億円	1億円	△4億円	5億円	1億円	+4億円
東南アジア金融事業	△40億円	△57億円	+17億円	△5億円	△23億円	+18億円
投資事業	27億円	25億円	+2億円	18億円	18億円	±0億円
非金融事業	5億円	2億円	+3億円	△0.3億円	0億円	±0億円
調整・その他	△28億円	△20億円	△8億円	2億円	△6億円	+8億円
合計	△6億円	△21億円	+15億円	33億円	2億円	31億円

国内金融事業

Point

- 営業収益・営業利益とも順調に推移し、計画を上回る実績
- Jトラストカードから受領した配当金123億円は、グループとして機動的に活用予定

J-GAAP基準

国内金融事業 ハイライト

2016年3月期3Q	4~12月	4~6月	7~9月	10~12月	増減
営業収益	82億円	26億円	27億円	29億円	+2億円
営業利益	28億円	9億円	6億円	13億円	+7億円

J-GAAP基準

主要子会社 営業利益の推移

2016年3月期3Q	4~12月	4~6月	7~9月	10~12月	増減
日本保証	26億円 ^{※1}	8億円	5億円	12億円	+7億円
パルティール債権回収	2億円	0.4億円	0.8億円	0.8億円	±0億円
Jトラストカード	2億円	0.9億円	0.7億円	1億円	+0.3億円

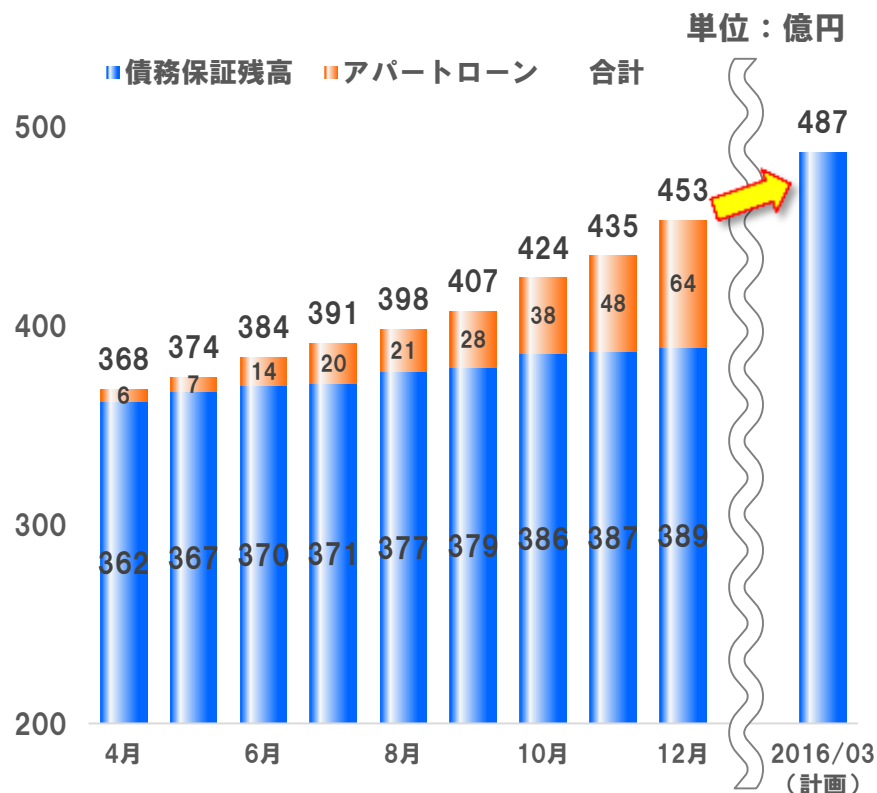
※1 日本保証の営業利益26億円のうち、債権回収分は10億円

※日本基準に基づく単体数値（連結調整前）で記載

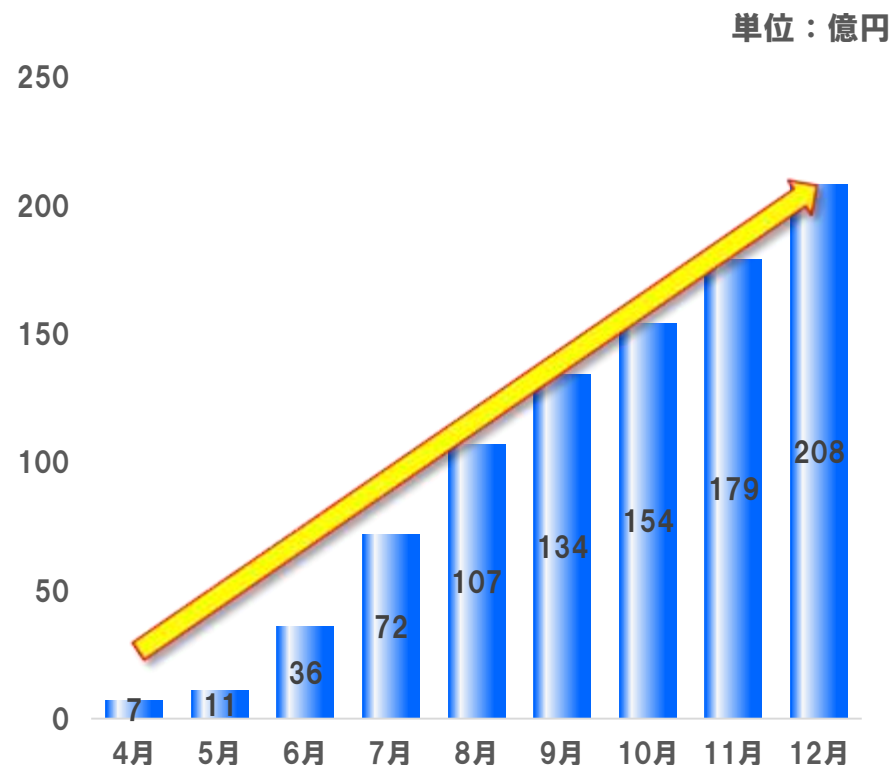
Point

- 保証残高は計画通りに進捗
- アパートローン本承認も順調に積み上がり、今期計画487億円に向け進捗中

日本保証における保証残高の推移



アパートローン本承認累計金額

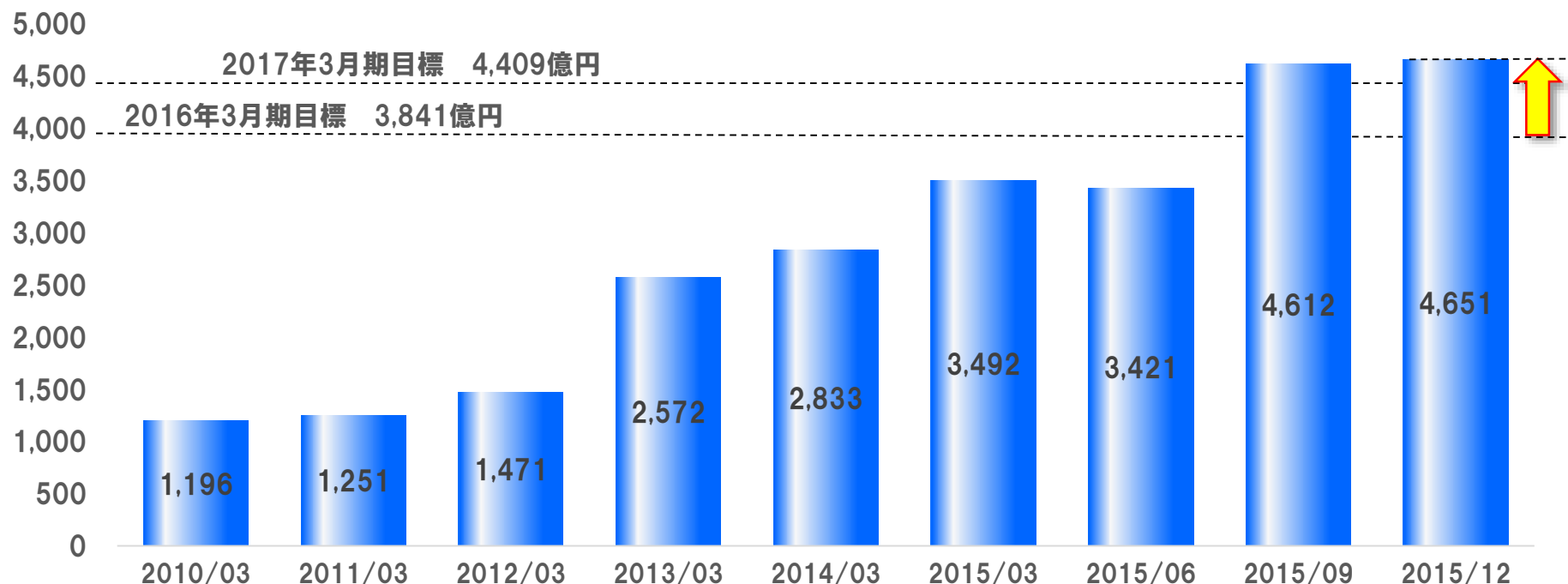


Point

- 第3四半期においても、パルティール債権回収の請求債権残高が増加
- 今期請求債権残高目標3,841億円を既にクリアし大幅に目標超過
(達成率：121% 2017年3月期の目標もクリア)

請求債権残高の推移

単位：億円



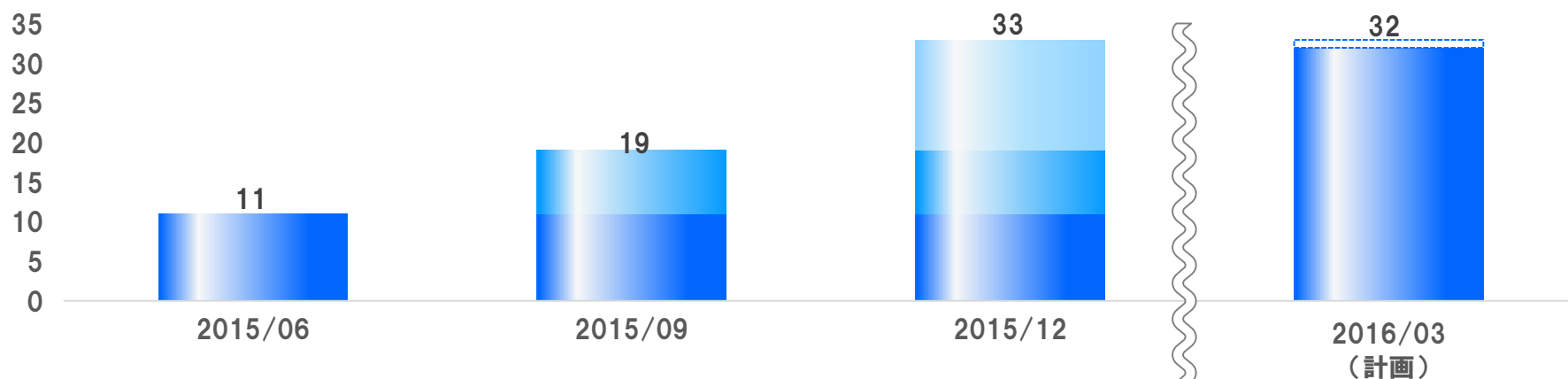
Point

- 今期IFRS基準の営業利益は既に103%と目標超過、更なるプラスアルファが期待

	2015/12 J-GAAP	2015/12 IFRS	2016/03 IFRS計画	IFRS計画 進捗率
営業収益	82億円	79億円	111億円	71.2%
営業利益	28億円	33億円	32億円	103.1%

今後の営業利益の積み上げイメージ（IFRS）

単位：億円



韓国金融事業

Point

- 営業収益は順調に推移
- 現地営業利益は順調に増加も、J-GAAPでは前期末に計上した負ののれんが影響し微増

J-GAAP基準

国内金融事業 ハイライト

2016年3月期3Q	4~12月	4~6月	7~9月	10~12月	増減
営業収益	199億円	74億円	59億円	65億円	+6億円
営業利益	1億円	1億円	△1億円	1億円	+2億円

J-GAAP基準

主要子会社 営業利益の推移

2016年3月期3Q	4~12月	4~6月	7~9月	10~12月	増減
J T 親愛貯蓄銀行	20億円	6億円	6億円	7億円	+1億円
J T 貯蓄銀行	3億円	0.4億円	1億円	1億円	±0億円
J T キャピタル	28億円	39億円	△5億円	△5億円	±0億円
T A 資産管理貸付	10億円	1億円	2億円	6億円	+4億円

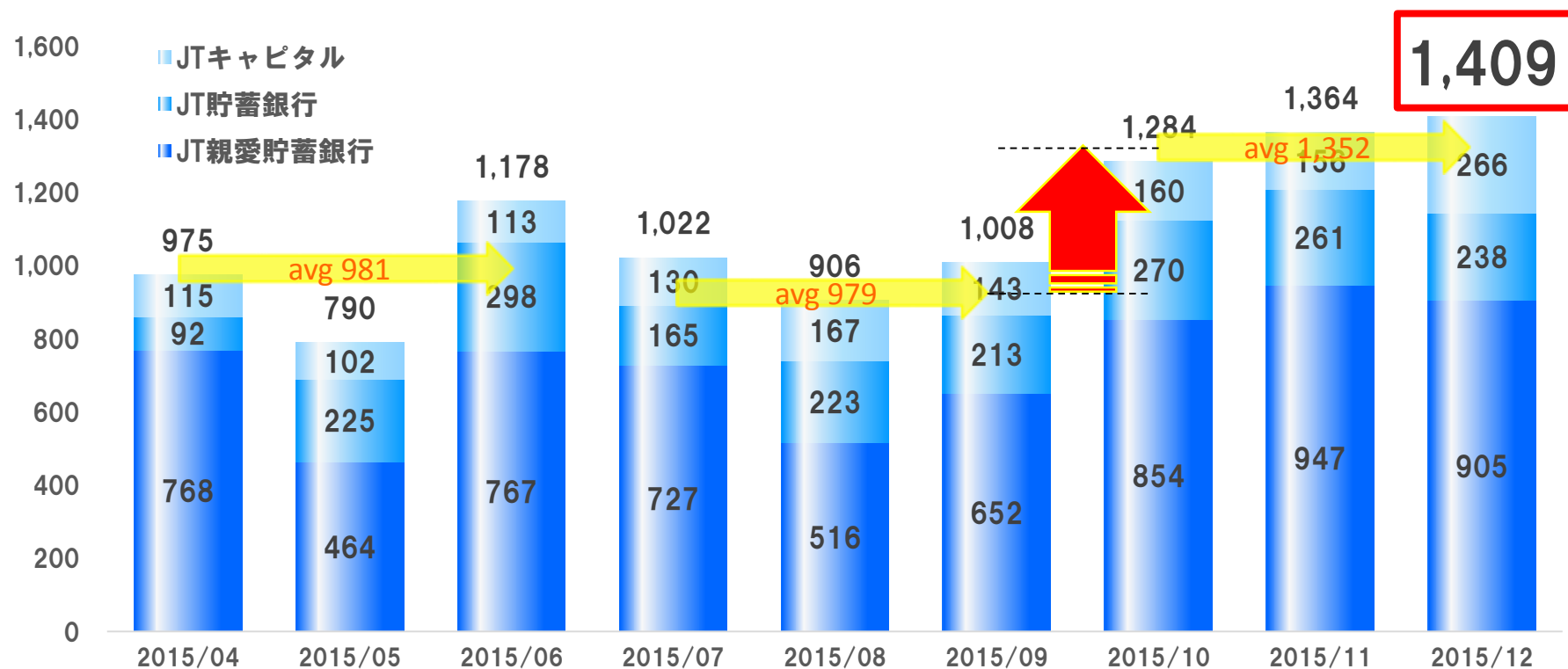
※日本基準に基づく単体数値（連結調整前）で記載

Point

- Jトラストブランドの醸成が奏功し、月間新規貸付金額は12月度1,409億ウォンと過去最高値を更新

月間新規貸付金額

単位：億ウォン



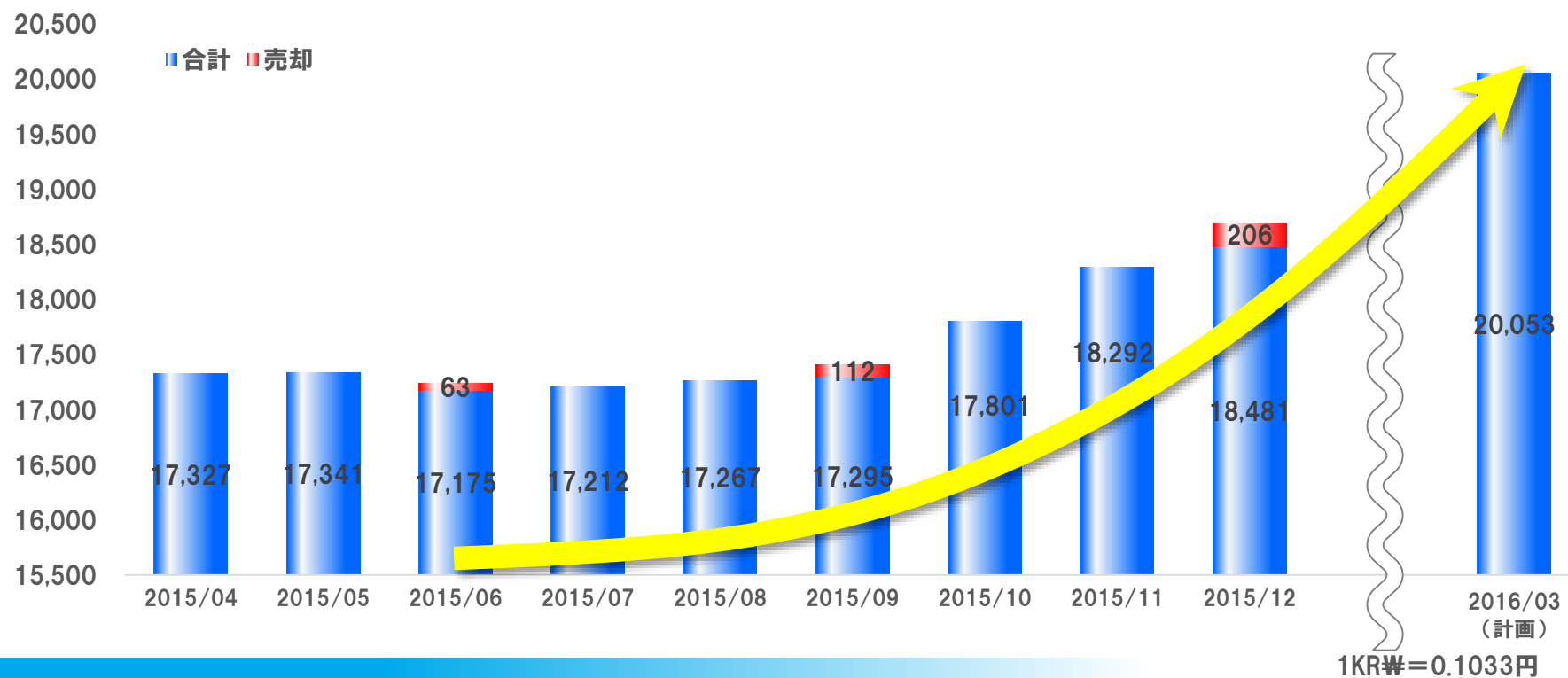
1KR₩=0.1033円

Point

- 貸付金残高は、2015年6月以降着実に純増トレンドとなる

貸付金残高推移

単位：億ウォン

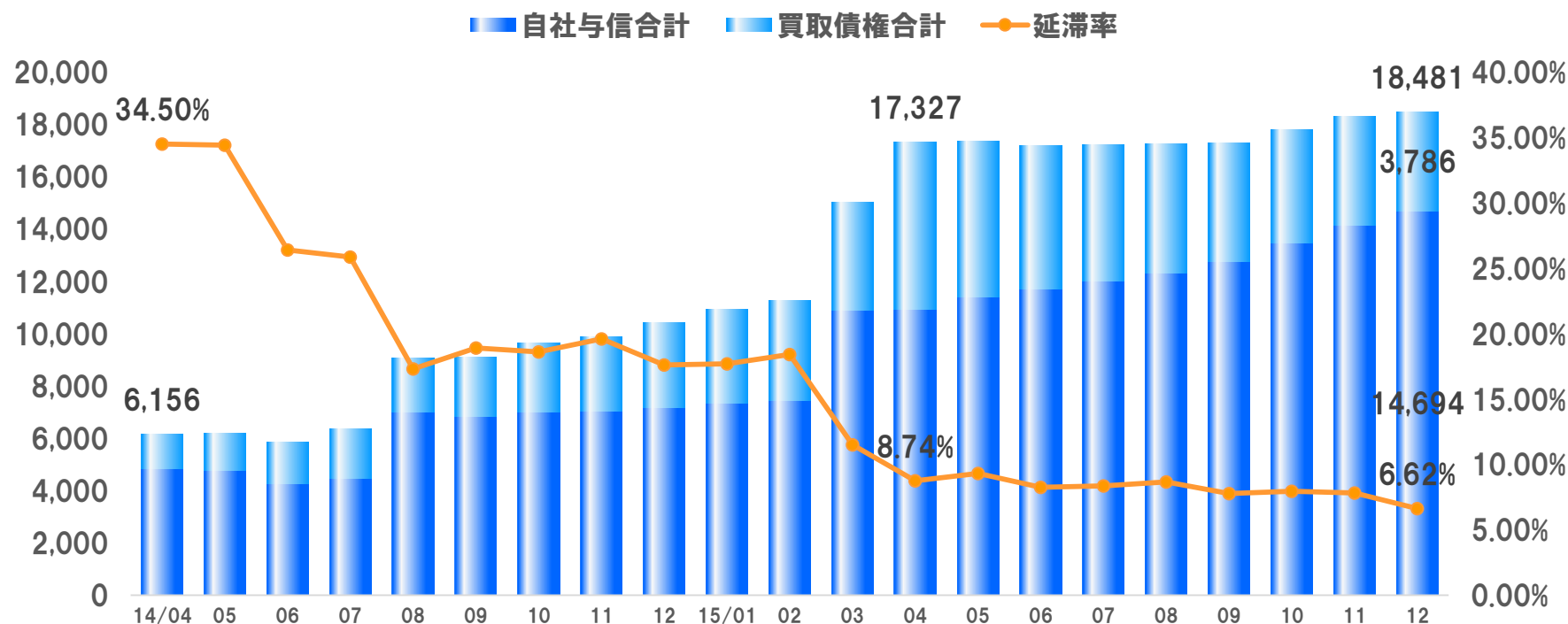


Point

- 自社与信(貸倒率:3%以内)を付与した債権が着実に増加した事
および不良債権の回収により、不良債権は着実に減少
- 今後、更なる貸し倒れコストの圧縮を見込む

貯蓄銀行/キャピタルの残高および不良債権推移

単位: 億ウォン



※不良債権=30日以上延滞債権

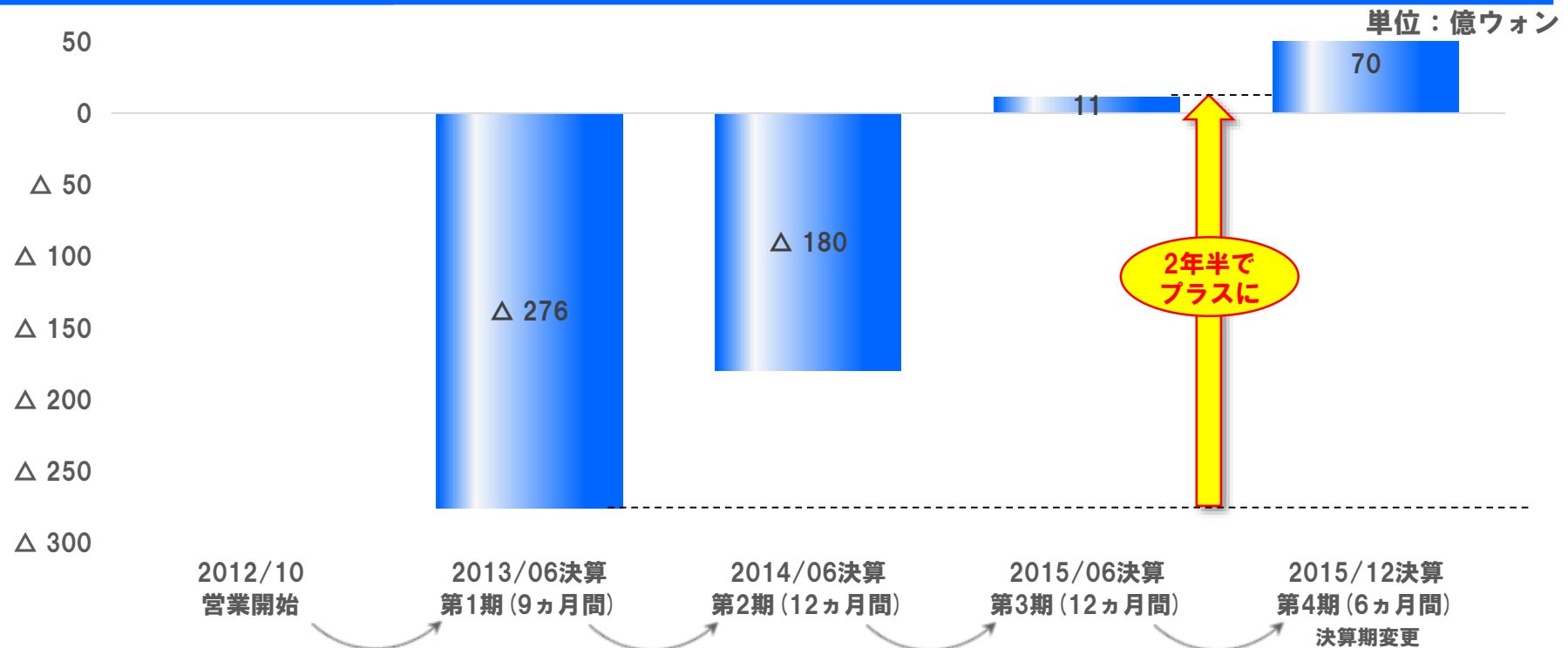
1KRW=0.1033円

Focus

- 創業から2年半で通期黒字化達成。破たんした貯蓄銀行の一部資産・負債を引き継ぎ、再生
- 第4期におけるJT親愛貯蓄銀行の営業利益は70億ウォンを実現

K-GAAP基準

JT親愛貯蓄銀行の営業利益推移



※ 2015年12月、韓国において全ての貯蓄銀行の決算期が12月に変更

Point

- 2015年12月、グローバル総合経済誌アジュ経済による『アジュ経済金融証券大賞』にて『信頼経営部門』の大賞を受賞
- 本賞は、韓国内の全金融業界が対象
- 顧客との信頼関係構築と徹底したコンプライアンス体制による経営の透明性向上で、信頼できる企業である事が認められた



Point

- 2016年度ファーストブランド賞受賞、貯蓄銀行部門（79行中）第1位を獲得（全54部門）
- 韓国消費者からの高い評価・支持を得て大きく成長
- 日本企業の選定はセブンイレブンとJT親愛貯蓄銀行の2社のみ

授賞式の模様



評価方法・項目

評価方法	
消費者モニタリング	国内居住の15歳以上の消費者 852,740人を対象にモニタリング
調査実施時期	2015年11月19日～29日
選定評価項目	
満足度に関する 評価	品質・サービスの満足度
	価格に対する満足度
	期待に対する満足度
	リピート購入意思
選好度	他人への推進→紹介意思
	各部門で最も好むブランドを 選択（2位）

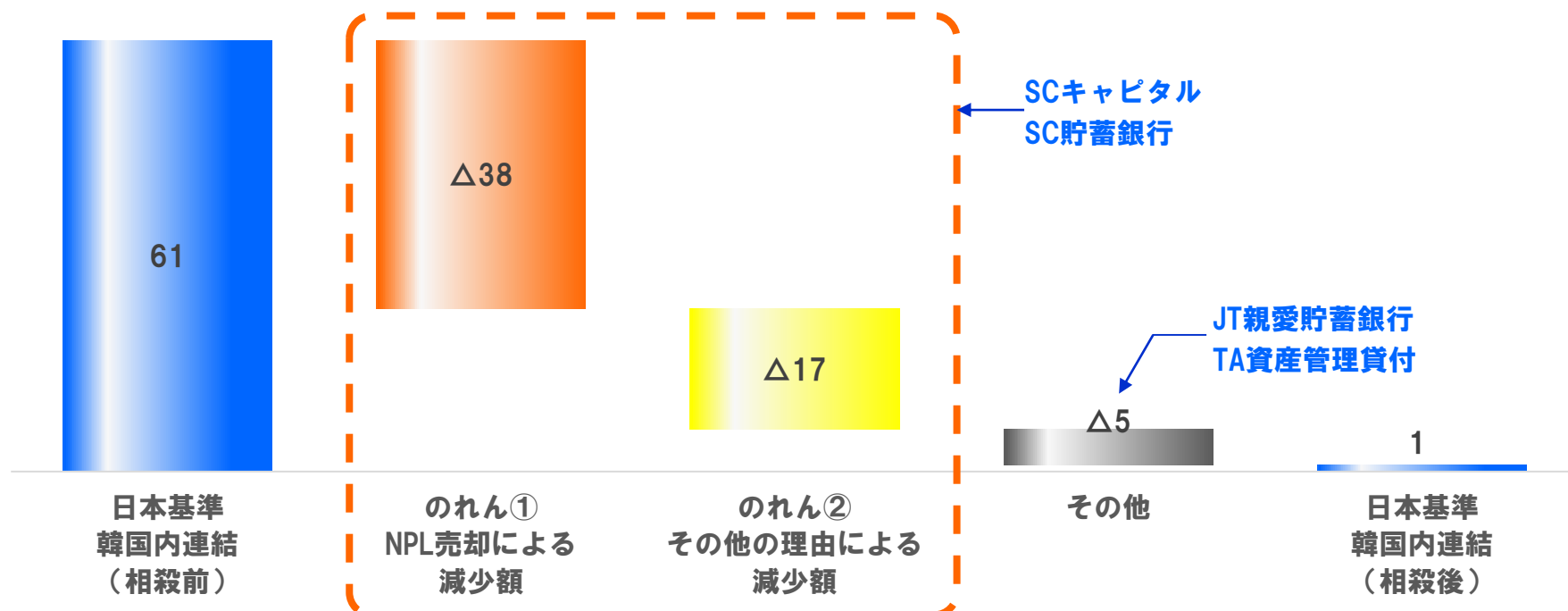
1位

Point

- 2015年3月期に計上した負ののれん発生益が今期の連結営業利益に影響
- 日本基準に換算した韓国内営業利益合計は61億円となる

のれんの償却が営業利益に与える影響（12月末現在）

単位：億円

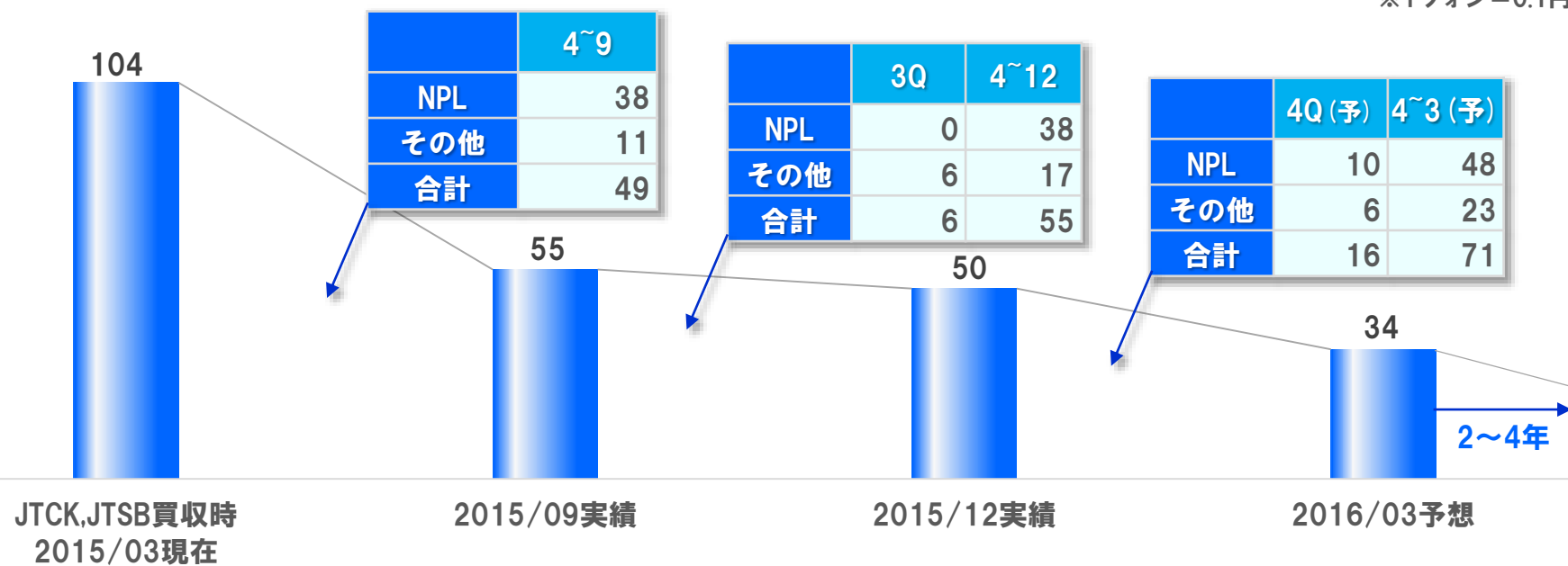


Point

- 2015年3月期連結決算に計上したJT貯蓄銀行およびJTキャピタル買収時における負ののれんが及ぼす影響について

のれんの残高の減少イメージ

単位：億円
※1ウォン=0.1円



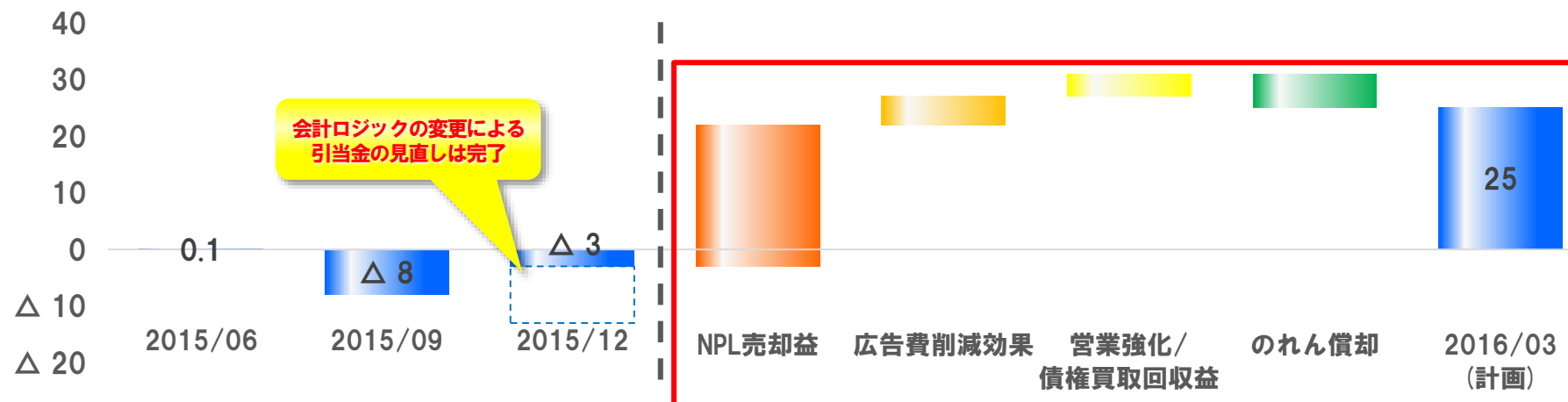
Point

- NPL債権の売却益、営業強化・広告費削減等により、通期計画の達成を目指す
- 前四半期まで課題であったIFRS基準貸倒引当金の会計ロジックは12月末時点で変更済み

	2015/12 J-GAAP	2015/12 IFRS	2016/03 IFRS計画	IFRS計画 進捗率
営業収益	199億円	201億円	300億円	67.0%
営業利益	1億円	△3億円	25億円	△12.0%

今後の営業利益の積み上げイメージ（IFRS）

単位：億円



東南アジア金融事業

Point

- 営業収益は横ばい。不良債権処理のため、貸付拡大に未だ注力できていない状況。月次での経常収支は2-3億円程度の赤字基調
- 貸倒引当金の繰入により営業損失が拡大 ※ 第2四半期決算時にIFRS参考値として開示済

J-GAAP基準	東南アジア金融事業 ハイライト				
2016年3月期3Q	4~12月	4~6月	7~9月	10~12月	増減
営業収益	90億円	32億円	29億円	29億円	±0億円
営業利益	△57億円	△25億円	△9億円	△23億円	△14億円

■ Jトラストインドネシア銀行 業績の取込みイメージ（営業利益）



Point

- 1月～3月および7月～9月の赤字は貸倒引当金の繰入が主な要因
- IFRS基準第3四半期（10月～12月）は第2四半期（7月～9月）対比25億円の改善

■ 東南アジア金融事業 会計基準の差異について（営業利益）

2016年3月期	累計	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
IFRS基準	△40億円		△5億円	△30億円	△5億円
日本基準	△57億円	△25億円	△9億円	△23億円	

内、貸倒引当金▲14億円

営業損失内訳：

単月経常部分損益（約▲2.5億）×3=▲7.4億＋貸倒引当金繰入 ▲5.2億 = ▲12.6億円

のれん償却費： ▲ 4.7億円

NPL債権売却損失（後発事象のため前倒し計上）： ▲ 4.6億円

その他連結調整： ▲ 0.8億円

連結ベース営業損失： ▲22.7億円

Point

- 2015年1月以降、さまざまな施策を実施することで経営の立て直しに注力
- 不良資産の精査と譲渡、組織再編とリストラ、資本追加注入をスピーディに実行

これまでの取り組み内容

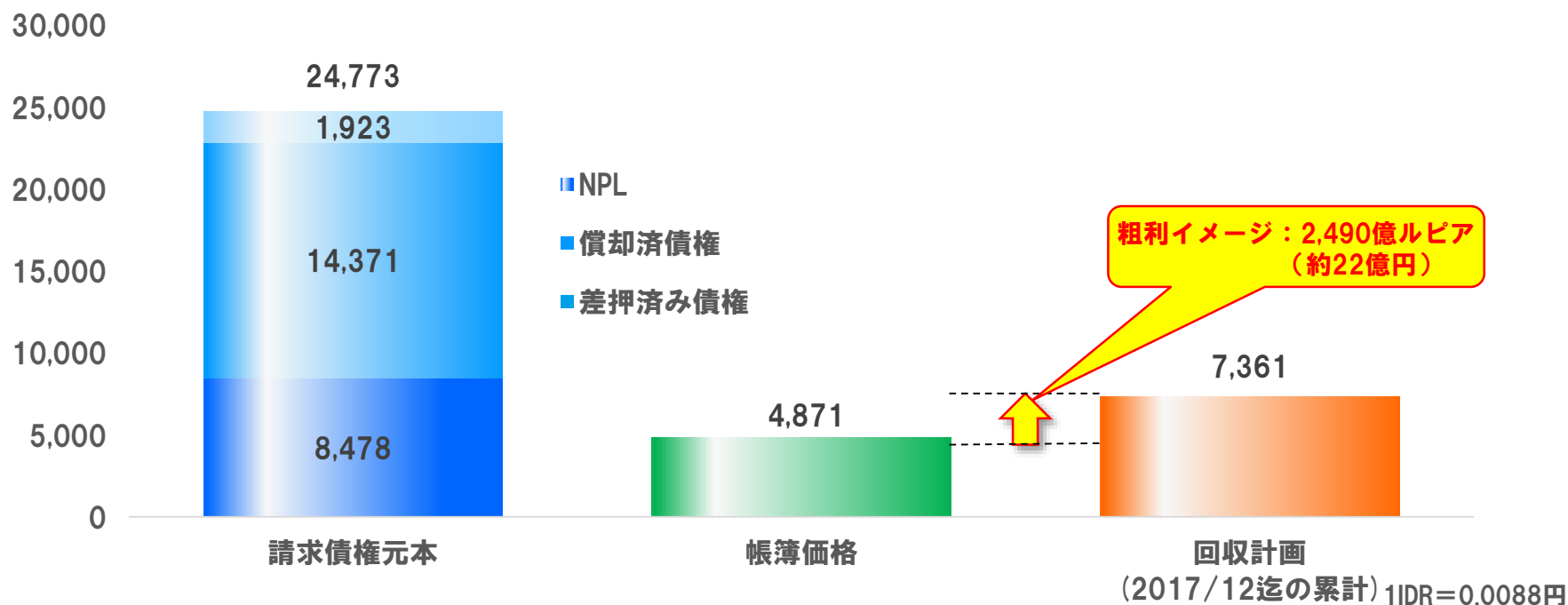
- ✓ 社名を『Bank J Trust』（Jトラストバンクインドネシア）に変更
- ✓ 資産内容をさらに精査し、必要な貸倒引当金を計上
- ✓ そのうえで、回収業務に特化するため、Jトラストインベストメンツインドネシア（JTII）にNPLを移転
- ✓ 日本、韓国のノウハウを結集して回収にあたる。人員も派遣済み
- ✓ 銀行内でも、不良債権に移行しないためのチームを組成
(Special Asset Management Team)
- ✓ マネジメントチームの派遣と再構成
- ✓ 追加の資本注入（3月 3000億ルピア, 9月 4000億ルピア, 10月 25百万USドル劣後債）により、自己資本比率を高め、資産拡大の準備を整える

Point

- 2.4兆ルピア（約220億円）のNPL債権を4,871億ルピア（約43億円）でJ T I Iに譲渡
- 2017年12月迄に7,361億ルピアの回収を見込む

J T I I におけるNPL回収計画

単位：億ルピア



Point

- インドネシア銀行ベスト頭取賞受賞の安藤律男氏を迎え、体制強化で中期経営計画を遂行
- 同氏の現地のネットワークを最大限に活用し、優秀なマネジメント人材を積極的に招へい中

安藤律男氏略歴

1979年	大和銀行（現りそな銀行）入行
1989年	りそなブルダニア銀行（インドネシア）配属
1996年	大和銀行国際部インドネシア室配属
2001年	りそなインドネシアファイナンス社長就任
2007年	アコム入社 同社海外業務開発部長就任
2008年	BNP銀行（アコムインドネシア銀行）副頭取就任
2009年	BNP銀行頭取就任
2013年	「インドネシア銀行ベスト頭取賞2013」を受賞 Best CEO, Indonesian Banking Award 2013
2015年	11月1日付け Bank J Trust Indonesia入行 12月：取締役就任



Point

- 社名を“Bank J Trust”に変更し、今後ジャパンブランドを全面的に押し出したマーケティング戦略を積極的に展開
- 親日国であるメリットを最大限活かした『差別化戦略』へ

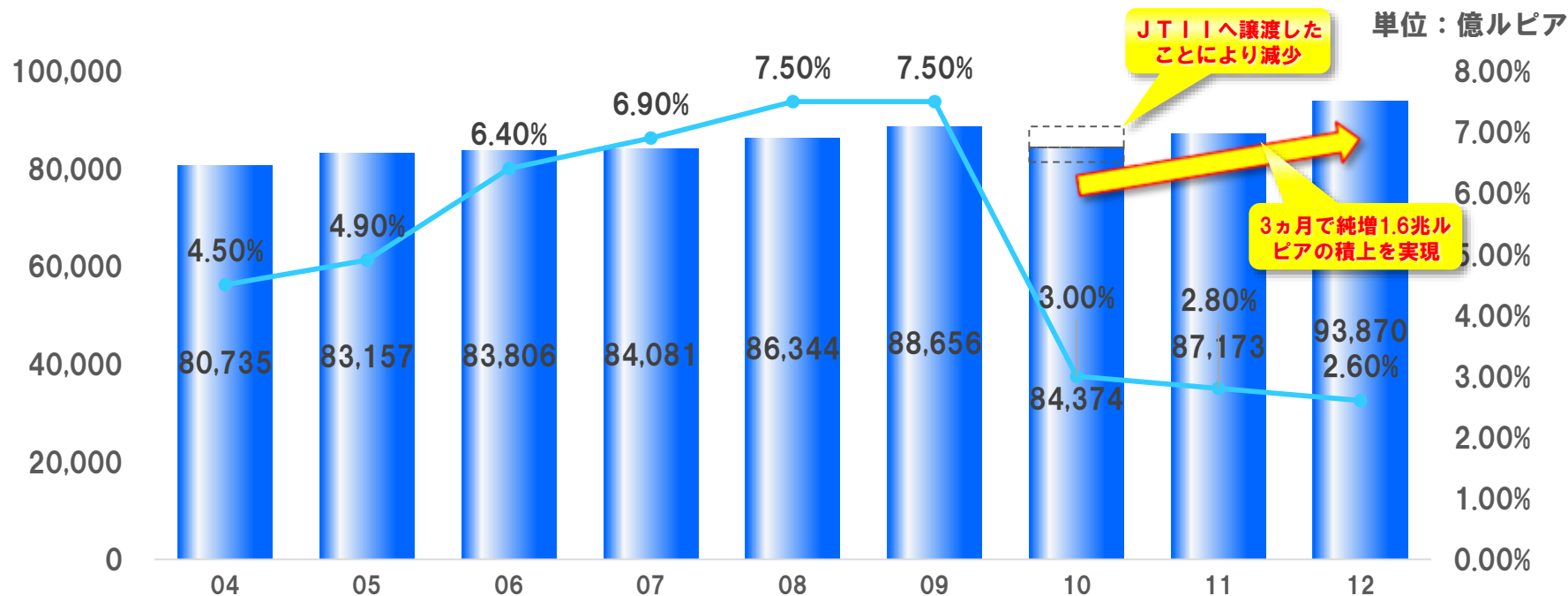
商号変更した本店壁面看板（左）と本支店の様子（右）



Point

- 2015年10月、約220億円の不良債権をJ T I Iに移管
- N P L 比率が3%未満となり、資本追加注入と合わせて金融当局特別監理下のステータスから通常監理へ移行済み
- 融資残高拡大トレンドへ完全移行(3ヶ月で1.6兆ルピアの残高積上を実現)
- 12月度、月間6,697億ルピアの純増は買収後最高の伸び

営業資産残高と不良債権比率の推移



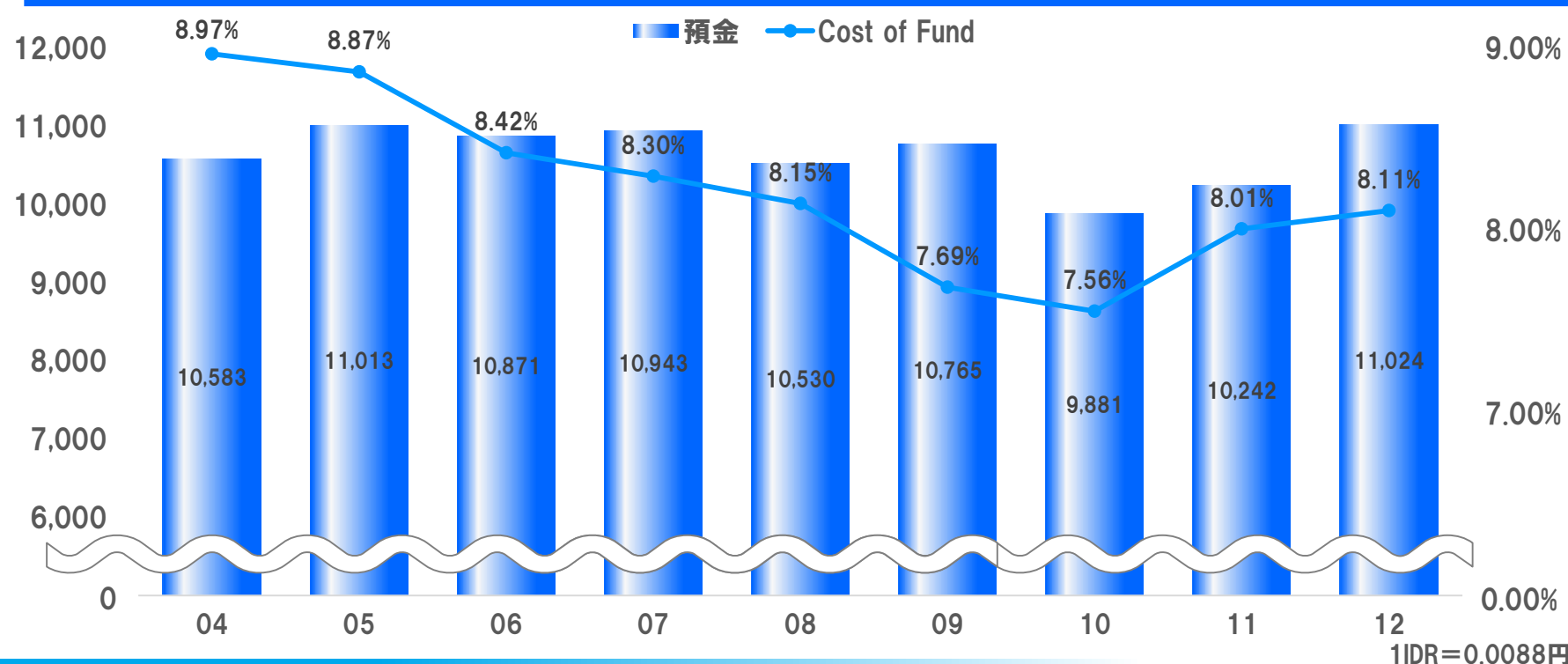
1IDR=0.0088円

Point

- COFは高金利の大口定期預金を交渉し金利を引き下げること、段階的に低下
- CASA比率を向上させるための営業活動を強化し、低金利預金が増加
- 10-12月期は期末流動性を確保する為の預金獲得を行った為金利が若干増加
- ドル建預金を合わせた平均預金金利は8.04%と今期目標(8.20%)をクリア

預金およびCOFの推移

単位：億ルピア



Point

- 営業資産および平均貸出金利が上昇することで金利収入増大
- 預金費用低減も寄与し、純金利収入（金利収入-利息費用）は着実にUP

Jトラストインドネシア銀行の主要数値

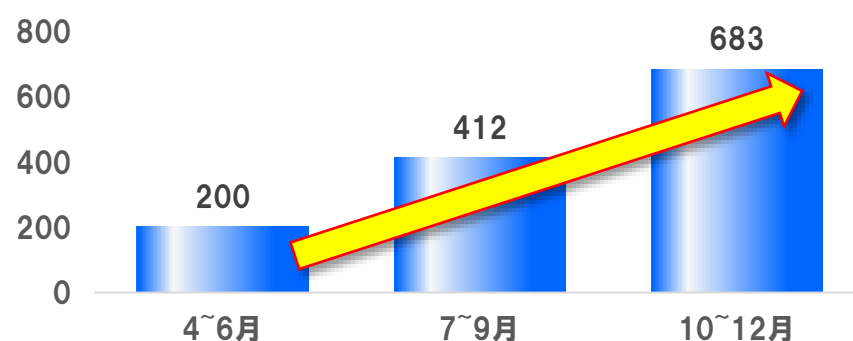
単位：億ルピア

2016年3月期	4~6月	7~9月	10~12月
営業資産残高	83,806	88,656	93,870
平均貸出金利	9.99%	10.55%	11.22%
平均預金金利	8.43%	7.69%	8.04%
純金利収入	200	412	683

平均貸出金利



純金利収入



Point

- **融資**：新融資チームの組成を通じた積極的な残高積み上げ
- **預金**：個人向けネットバンクの開始、ジャパンデスクを通じたCASAの獲得によるCOF低下

融資施策

- ✓ 大企業から中企業向けへのシフト
- ✓ SME向け融資の増大
- ✓ 個人事業主向け動産担保融資の拡大
- ✓ GLFI（グループリースファイナンスインドネシア）を通じた個人向け割賦販売金融の拡大
- ✓ ジャパンとコリアンデスクの設置

預金施策

- ✓ 新預金商品の展開による預金の拡大とCOF低下
- ✓ モバイルバンキング・インターネットバンキングの開始
- ✓ 日本でルピアベースの商品を開発し、日本のパートナー金融機関と提携し低コスト預金を獲得する

Point

- 3月までに貸付残高積上・金利費用および販管費削減により定常的に損益分岐点に到達見込み
- IFRS基準においては、NPLの売却により、延滞率が改善し期末に貸倒引当金の戻入^{*}が見込まれる
- J T I I によるNPL債権の回収が本格的に稼働し収益に貢献

※戻入金額については現在精査中

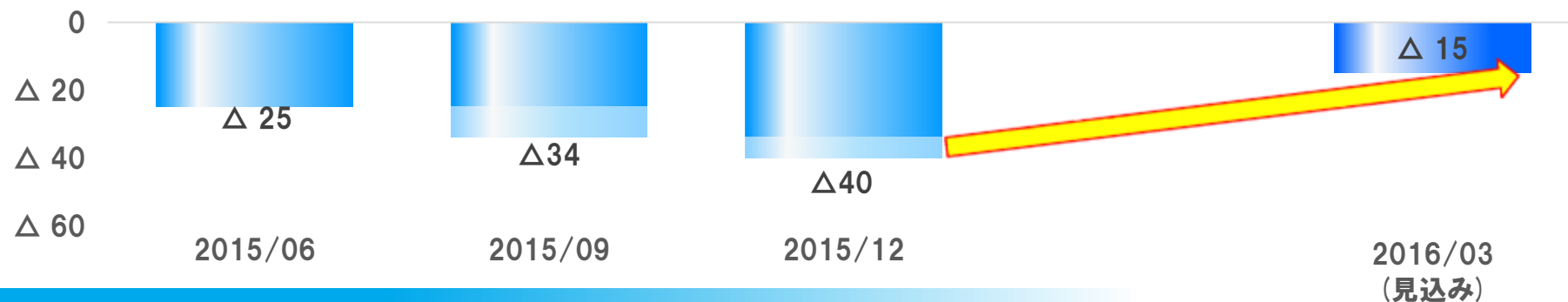
※2015年1月～9月

※2015年4月～12月

	2015/12 J-GAAP	2015/12 IFRS	2016/03 IFRS計画	IFRS計画 進捗率
営業収益	90億円	88億円	120億円	73.3%
営業利益	△57億円	△40億円	15億円	△266.7%

今後の営業利益の積み上げイメージ（IFRS）

単位：億円



非金融事業・投資事業

Point

- Jトラストアジアの投資事業が大きく貢献
- グループリース株式の転換社債評価益や転換社債実現利益を計上したことにより、投資事業は25億円の利益を計上

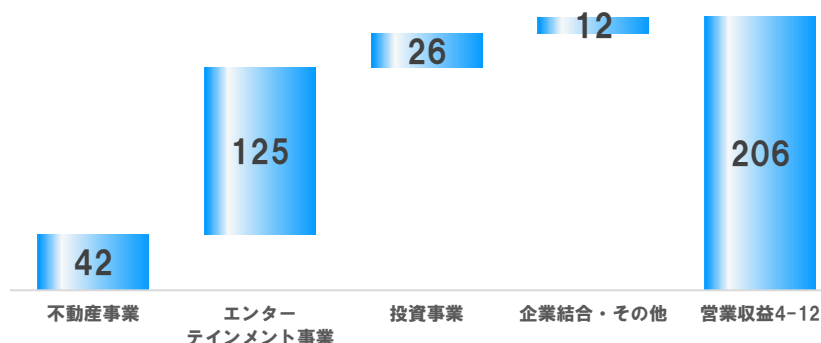
J-GAAP基準

非金融事業・投資事業 ハイライト

2016年3月期3Q	4~12月	4~6月	7~9月	10~12月	増減
営業収益	194億円	51億円	69億円	74億円	+5億円
営業利益	27億円	1億円	9億円	17億円	+8億円

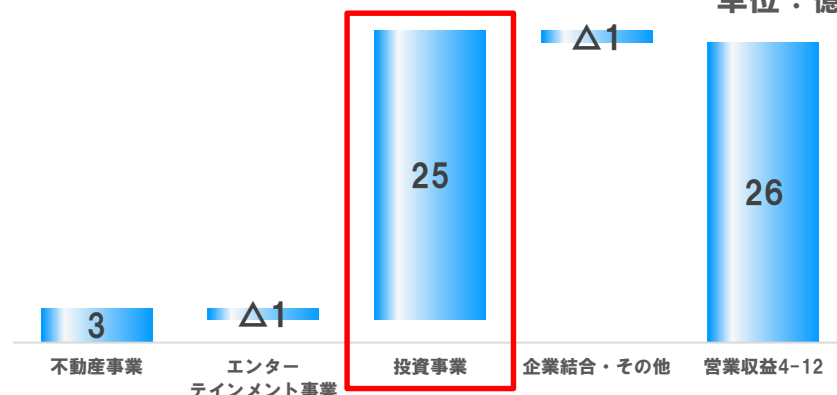
非金融事業/投資事業 営業収益

単位：億円



非金融事業/投資事業 営業利益

単位：億円



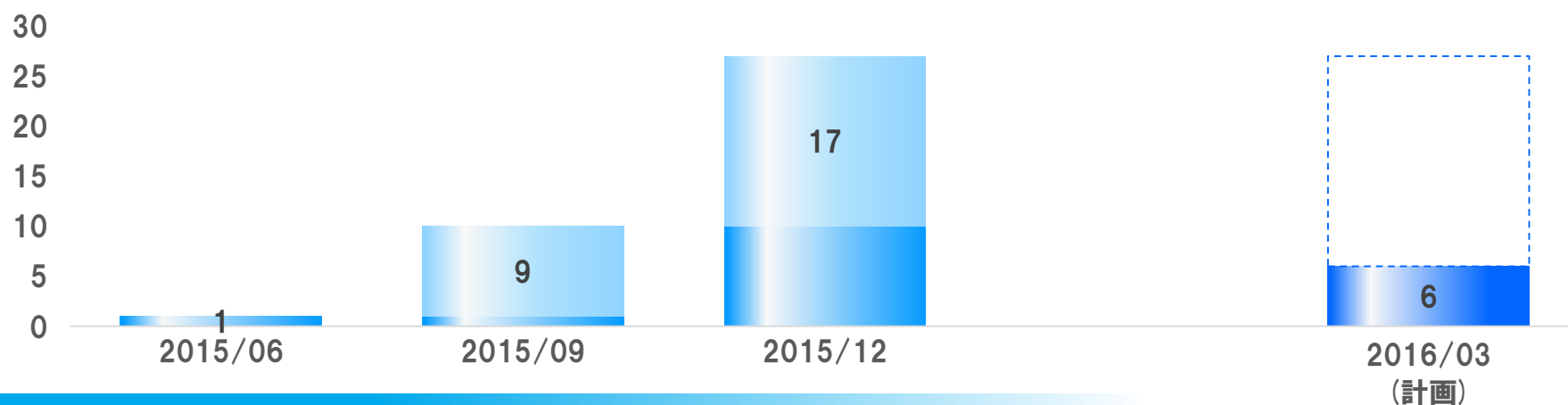
Point

- 連結業績に貢献するべく更なる利益の積み上げを目指す

	2015/12 J-GAAP	2015/12 IFRS	2016/03 IFRS計画	IFRS計画 進捗率
営業収益	194億円	194億円	250億円	77.6%
営業利益	27億円	32億円	6億円	533.3%

今後の営業利益の積み上げイメージ（IFRS）

単位：億円



まとめ

Point

- 東南アジア金融事業の不足分を国内金融事業および投資事業でカバーし、通期計画の達成を目指す

IFRS基準 ※未監査

通期計画との差異

2016年3月期3Q	通期計画	4~6月	7~9月	10~12月	4~12月	通期計画との差異
国内金融事業	32億円	11億円	8億円	13億円	33億円	+1億円
韓国金融事業	25億円	△8億円	0.7億円	5億円	△3億円	あと28億円
東南アジア金融事業	15億円	△5億円	△30億円	△5億円	△40億円	あと55億円
非金融・投資事業	6億円	1億円	12億円	18億円	32億円	+26億円
調整・その他*	—	△17億円	△11億円	2億円	△28億円	—
合計	75億円	△18億円	△21億円	33億円	△6億円	あと81億円

※その他：どのセグメントにも属さない損益、および連結調整（為替差損益 介護事業損失 子会社株売却損等）

